

平成12年鳥取県西部地震速報

土砂災害ソフト対策研究会

1. はじめに

平成12年10月6日13時30分頃、鳥取県西部地下約10kmを震源とした「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」が発生した。マグニチュードは7.3（暫定10月6日気象庁発表）と、平成7年1月17日に起きた兵庫県南部地震（M7.2）に匹敵する大きな地震であり、鳥取県境港市や同県日野町で震度6強を記録したのを始め、中国・四国地方の広い範囲で震度4～5の強い揺れを生じた。その後は余震が続き、8日にはマグニチュード5.0の最大の余震が発生したが、平成12年11月15日現在、余震活動はほぼ収束している。鳥取・島根県地方に於ける規模の大きな地震は1943年に死者1,083人を出した鳥取地震（M7.2）以来約半世紀ぶりである。鳥取県西部地震の発生箇所では、活断層は知られていなかったが、余震の震源分布や発震機構からみて、北北西-南南東方向の断層が活動したものと考えられている。

2. 地震災害の概要

今回の地震では鳥取県日野町・西伯町・境港市、島根県伯太町・広瀬町・安来市、岡山県新見市に被害が集中している。



図1 震度分布図

害が集中している。地震の規模が大きかったにも関わらず幸い死者は0人であったが、負傷者は138人に上り、住宅も約2,000棟が全半壊するなど大きな被害が出ており、一時は鳥取県内だけで2,700人余りが避難生活を強いられていた。また、境港市では港湾施設などに液状化現象による噴砂の発生や、中山間部ではがけ崩れなど、土砂災害が多数発生している。

表-1 鳥取県西部地震による被害

	人的被害		住家			がけ崩れ
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部損壊	
鳥取県	0	97	289	289	3,119	195
島根県	0	11	19	19	3,703	6
岡山県	0	18	7	7	453	5
他府県	0	12	0	0	43	1
合計	0	138	315	315	7,318	207

平成12年10月30日11時00分現在 消防庁(37報)による



米子市青木地区における墓石の転倒状況

3. 震後の降雨状況

平成7年の兵庫県南部地震や本年の伊豆諸島・神津島の地震活動では、地震動によって斜面が不安定化し、後の降雨によってがけ崩れを始めとする土砂災害を引き起こしやすい状態にあった。当地域では地震後しばらくは目立った降雨はなかったものの、10月末から11月初頭にかけて温帯低気圧による大きな降雨を記録している。この降雨により、がけ崩れが発生し、伯備線が根元（日野町）～生山（日南町）間で長期間不通になるなど各地で被害を出している。

4. センターの取り組み

この地震災害を受けて、鳥取・島根両県では、震後の土砂災害基準雨量の検討を行うこととなった。地震による地山状況の変化を考慮して、土砂災害警戒避難基準雨量値の引き下げを検討するもので、学識経験者と行政担当者からなる「震後土砂災害警戒・避難基準雨量検討委員会」（委員長：小橋京都大学名誉教授）を設置し、検討することとなった。

対象地域は豪雪地域に指定され、融雪による土砂災害の警戒・避難についても考慮する必要があり、今後それらの検討を進めて行くことにしている。第1回検討委員会は11月27日（月）に米子市において開催した。

これに先立ち、11月7～8日に瀬尾専務理事を中心とした調査チームが現地入りし、被害の大きかった日野町を中心に現地状況調査を行った（写真）。

現地の状況としては、屋根にブルーシートが多く見られ被害が決して小さくはないことが窺えた。10/6の地震による崩壊に対しては、応急的な対策がなされているところであるが、降雨等による崩壊の拡大が懸念される場所であり、11/2の雨により崩壊が散見され、現在応急的な対応も含め実施されているところである。

また、瀬尾専務理事の恩師にあたる日野町長により、日野町内の現場をご案内いただいたことや、調査中にお会いした地元の方々から地震時に「山腹や土蔵・土壁等の崩壊などにもなう土煙が激しかった」などの話を伺い、現地の状況把握に役立った。

（執筆担当：総合防災部 小野弘道、片嶋啓介）



日野町道三原上流における斜面崩壊状況